

令和7年度 一般選抜（前期日程）

共生社会創成学部 小論文

産業技術学部 総合問題

問題冊子

受験学部・学科 問題	共生社会創成学部 (小論文)	産業技術学部 (総合問題)		
	共生社会創成学科 聴覚障害コース	産業情報学科	総合デザイン学科	産業情報学科 総合デザイン学科
問題 1 ※	●	●	●	●
問題 2		●		●
問題 3			●	●
解答時間	60分	90分	90分	120分

※問題1の解答用紙のみ、試験開始から60分経過した時点で回収します。

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を除いて7ページあります。
3. **受験学部・学科の問題のみ**解答してください。
4. 解答用紙は、受験学部・学科の問題に対応した用紙のみが配布されます。
5. 各問題の解答用紙は、問題1が1枚、問題2が3枚、問題3が1枚 です。
6. 解答用紙の定められた欄に**氏名及び受験番号を、監督員の指示に従って記入してください。**
7. 解答は、解答用紙の定められたところに記入してください。
8. 試験中に問題冊子および解答用紙の印刷不鮮明・汚れ、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
9. 色付き紙1枚(両面印刷)は下書き用紙です。下書き用紙に書かれたものは、採点の対象とはしません。
10. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

※ 問題訂正があった箇所については、訂正を反映したものを掲載しています。

問題 1 （共生社会創成学部（小論文）・産業技術学部（総合問題） 共通）

以下のデータは、日本財団が実施した『18 歳意識調査「第 5 回—障害—」』の調査結果の一部を抜粋したものである。

【調査概要】

調査対象：日本全国の 17 歳-19 歳の男女（ $n = 800$ ；男 $n = 400$ ；女 $n = 400$ ）

調査期間：2018 年 11 月 8 日（木）—11 月 12 日（月）

調査手法：インターネット調査

Q1. あなたは、これまでに障害のある方と接したり、働いているところを見たことがありますか？

Q1への回答（ $n = 800$ ）

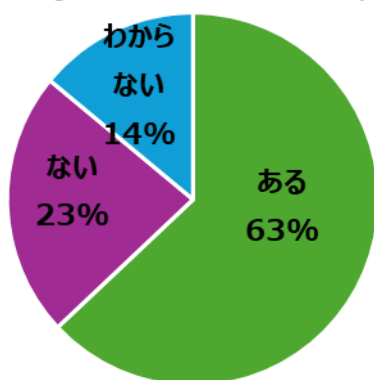


図 1-1 Q1 の回答

Q2. あなたは、障害のある人が困っているときに手助けをしたことがありますか？

Q2への回答（ $n = 800$ ）

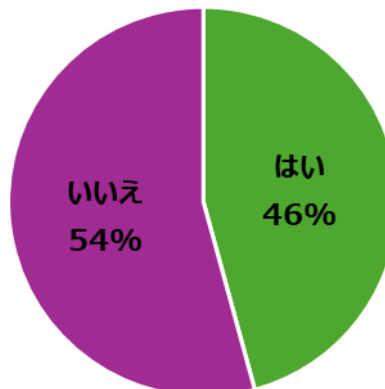


図 1-2 Q2 の回答

Q3-1. (Q2 で「いいえ」と回答した方への問)

手助けをしなかった理由は何ですか？（複数回答）（ $n = 246$ ）

※Q2 で「いいえ」と回答した人の中から「手助けする機会がなかった」と回答した 188 人を除く

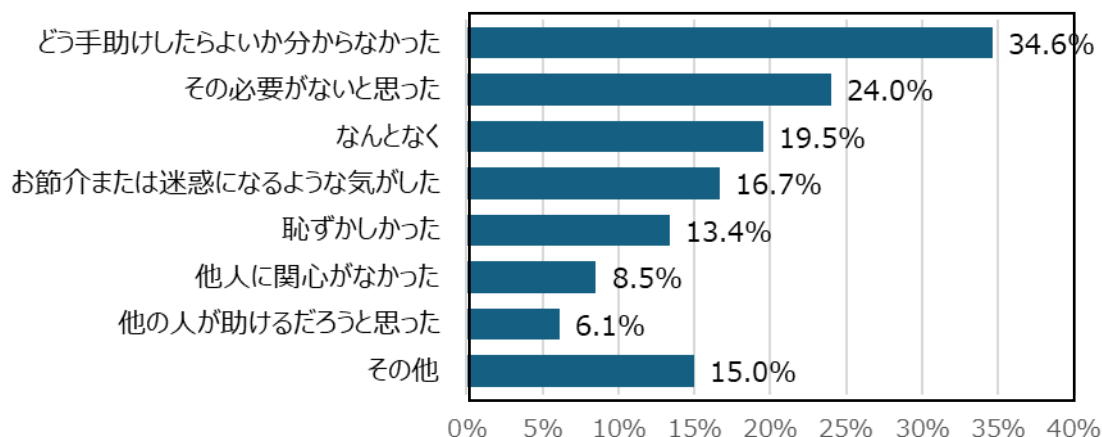


図 1-3 Q3-1 の回答

Q3-2. (Q2 で「はい」と回答した方への問)

では、手助けをした理由は何ですか？（複数回答）（n = 366）

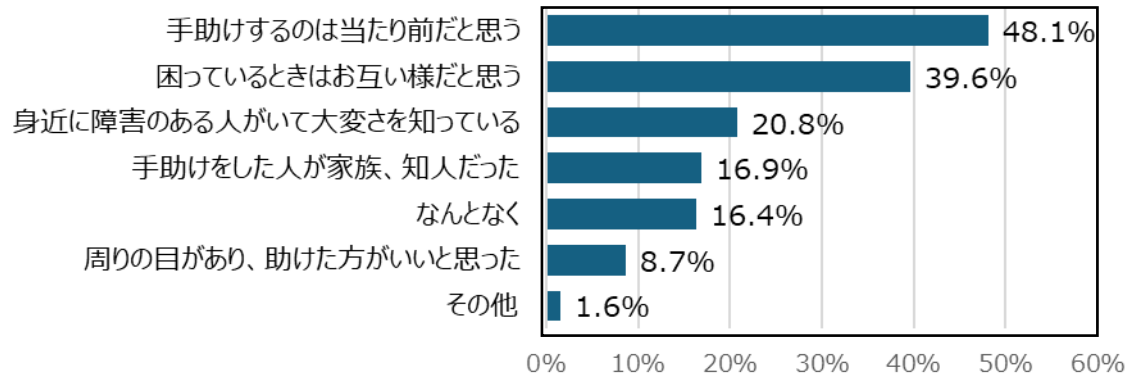


図 1-4 Q3-2 の回答

（出典：日本財団（2018）『18歳意識調査「第5回—障害—」』）

調査概要とデータを読み、以下の問いに答えなさい。

- (1) 図 1-1～1-4 から読み取れることについて、正しい選択肢の記号をすべて選んで答えなさい。
- (ア) これまでに障害のある方と接したり、働いているところを見たことがあると回答した人の割合は、60%を超えている。
 - (イ) 「障害のある人が困っているときに手助けをしたことがある」に対して「いいえ」と回答した人の割合は、50%以下である。
 - (ウ) Q2 で「いいえ」と回答した人で手助けする機会があった人が手助けしなかった理由について、「どう手助けしたらよいかわからなかった」と回答した人の割合が 1 番多いが、この割合は「その必要がないと思った」と回答した人の割合と「お節介または迷惑になるような気がした」と回答した人の割合の合計より小さい。
 - (エ) Q2 で「はい」と回答した人が手助けをした理由について、「身近に障害のある人がいて大変さを知っている」と回答した人の割合が 3 番目に多く、「手助けをした人が家族、知人だった」と回答した人の割合と「なんとなく」と回答した人の割合の合計は「手助けするのは当たり前だと思う」と回答した人の割合より多い。
- (2) 障害のある人が困っているときに手助けをする機会があったが手助けをしなかった人が今後手助けをするようになるために、どのような働きかけが効果的であると考えられるか。データから言えることをもとに、400 字以内で述べなさい。

問題 2 （産業技術学部 産業情報学科（総合問題））

(1) 表 2-1 は、ある中学校の 2 年生全員の視力検査の結果を示している。表の 1 番左の列の数値が左目の視力、表の 1 行目の数値が右目の視力を表しており、表内の数値は、人数を表している。この表をもとに、次の問い(a)～(c)に答えなさい。

表 2-1：2 年生の視力検査の結果（人）

右目 左目	～0.5	0.6	0.7	0.8	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	合計
～0.5	5	3								8
0.6	4	4	3	5	2	1				19
0.7	2	4	8	9	7	3	1			34
0.8	2	3	7	8	7	6	2	1		36
0.9		1	4	7	7	5	3	2		29
1.0			2	7	4	7	5	3	1	29
1.2			1	3	4	5	4	3	2	22
1.5					1	2	3	2	1	9
2.0							1		1	2
合計	13	15	25	39	32	29	19	11	5	188

(a) 右目と左目の視力が、両方とも 0.8 に満たない生徒は何人か。[選択肢]ア～オの中から 1 つ選びなさい。

[選択肢]

ア. 17 人

イ. 33 人

ウ. 34 人

エ. 67 人

オ. ア～エの中に適切なものはない。

(b) 右目か左目の少なくとも一方の視力が、1.2 以上の生徒は全体の約何%か。[選択肢]ア～オの中から 1 つ選びなさい。

[選択肢]

ア. 約 9%

イ. 約 12%

ウ. 約 27%

エ. 約 36%

オ. ア～エの中に適切なものはない。

(c) 左右の目の視力の平均が 1.2 以上の生徒は何人か。[選択肢]ア～オの中から 1 つ選びなさい。

[選択肢]

ア. 17 人

イ. 26 人

ウ. 36 人

エ. 49 人

オ. ア～エの中に適切なものはない。

- (2) A、B、C、D の会社は、それぞれ独自の店舗を所有し、書籍を販売している。各社が書籍の在庫調査を行った結果、表 2-2 のようになった。また、次のⅠ～Ⅲのことが分かっている。

表 2-2：各社の 1 店舗あたりの書籍の平均在庫数

会社	1 店舗あたりの書籍の平均在庫数
A	100 冊/店舗
B	80 冊/店舗
C	150 冊/店舗
D	60 冊/店舗

- Ⅰ．A 社全体と B 社全体の在庫数は同じである。
 Ⅱ．C 社の店舗数は A 社の半分である。
 Ⅲ．D 社の店舗数は A 社の 3 倍である。

このとき、以下の問いに答えなさい。

- (a) 次の文の α と β を数字または数字と記号を組み合わせた式で表しなさい。

【文】A 社全体の在庫数と B 社全体の在庫数が同じであることから、A 社全体の最小の在庫数は、100 と 80 の最小公倍数になるので、(α) 冊となる。そうすると、A 社全体の在庫数は、(α) 冊の倍数となるので、 N を整数として、(αN) 冊となる。表 2-2 より、A 社は 1 店舗あたりの在庫数が 100 冊なので、A 社の店舗数を N を用いて表すと、(β) と表すことができる。

- (b) 次の①～③の正誤について、正しいものを以下の[選択肢]ア～ケの中から 1 つ選びなさい。

なお、答えを導き出すための考え方と計算過程も書きなさい。図や表を用いてもよい。

- ① A 社全体の在庫数は、C 社全体の在庫数より少ない。
 ② B 社全体の在庫数と C 社全体の在庫数を合わせた在庫数は、D 社全体の在庫数より少ない。
 ③ B 社と C 社を合わせた 1 店舗あたりの書籍の平均在庫数は、A 社と同じである。

[選択肢]

- ア. ① 正 ② 正 ③ 正
 イ. ① 正 ② 正 ③ 誤
 ウ. ① 正 ② 誤 ③ 正
 エ. ① 正 ② 誤 ③ 誤
 オ. ① 誤 ② 正 ③ 正
 カ. ① 誤 ② 正 ③ 誤
 キ. ① 誤 ② 誤 ③ 正
 ク. ① 誤 ② 誤 ③ 誤
 ケ. ①～③のうち正誤を判断できないものがある。

- (3) 合同な立方体が積み上げられた立体があるとき、図 2-1 は、正面から見た図であり、図 2-2 は、真上から見た図である。立体に用いられている立方体の数は正面と真上から見た図だけでは完全には確定できない。立体に用いられている立方体の個数として考えられる最小数はいくつか、以下の〔選択肢〕ア～キの中から 1 つ選びなさい。

↓ 真上から見た方向

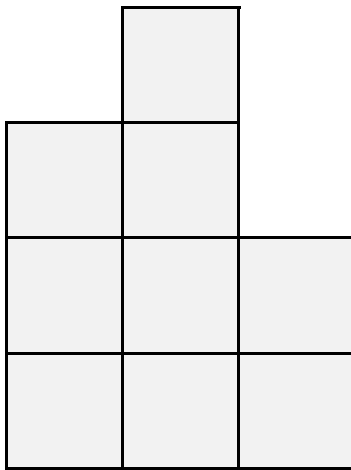
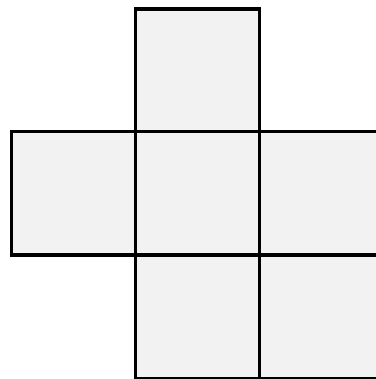


図 2-1：正面から見た図



↑ 正面から見た方向

図 2-2：真上から見た図

〔選択肢〕

- ア. 8 個
- イ. 9 個
- ウ. 10 個
- エ. 11 個
- オ. 12 個
- カ. 13 個
- キ. ア～カに適切なものはない。

問題3 （産業技術学部 総合デザイン学科(総合問題)）

次の文章は、ある環境団体が地球温暖化問題について、中学生を対象にスライド提示資料1枚を用いながら説明したときの発話文である。説明内容を表す1ページのスライド資料を作成しなさい。文字以外にイラストや図を使用しても構わない。また、スライドの表示はプロジェクター投影で縦1.5m、横2mの表示であり、また教室は8m×8mのスペースであることを踏まえて作成しなさい。

【説明者の発話文】

今日はみなさんに、SDGsの目標から、「気候変動による地球温暖化の問題について知ろう」というテーマでお話します。

現在、地球上では二酸化炭素などの温室効果ガスが上空を覆い、気温の上昇や干ばつなど気候変動による地球温暖化の問題が生じています。そのため、SDGsは、世界的な目標の一つとして、「気候変動に具体的な対策を」と定めています。この具体的な対策として私たち消費者個人ができる取り組みはたくさんありますが、最初にその中の3つの取り組みについてスライドで紹介します。

1つ目は、ゴミを減らす取り組みです。「リデュース（Reduce）：ゴミや消費資源を減らす」、「リユース（Reuse）：捨てずに繰り返し使う」、「リペア（Repair）：修理して使う」、「リサイクル（Recycle）：資源として再利用する」が推進されています。私たち消費者個人でできることが色々あります。例えば、買うものを減らしたり、マイバッグを使用したり、修理してできるだけ長く使ったり、資源ごみの分別を行ったりなどです。

2つ目は、ガソリン車から電気自動車へ移行する取り組みです。電気自動車は排気ガスを出さないので二酸化炭素の排出を防ぐことができます。日本政府は「2050年カーボンニュートラル宣言」を行い、2050年までに完全にガソリン車の生産と利用の廃止を目指しています。

3つ目は、家庭で節電する取り組みです。家庭電力の大部分は、石炭や石油、ガスを燃料とした火力発電が70%以上を占めていて、二酸化炭素を多く排出しています。発電種類を選ぶことは個人では難しいので、できるだけ節電してエネルギー消費量を減らしましょう。例えば、こまめな電源のオンオフ以外に、エアコンの温度設定を夏場は高く、冬場は低めに設定したり、電球をLEDや省エネタイプに取り替えたりすることも節電になります。